

要援護者の避難と安否確認が進んだのですね。

山田：地域の実情を熟知している自主防から、初期の安否確認をしていただきたいと思っています。ある自主防では地域に住んでいる方々の要援護者名簿を紙ベースで持って、しかも普段、その家のどこに要援護者が寝ているかがわかる状態になっている所もあります。今回の地震で自主防災組織がうまく機能した所は、普段からの地域活動が活発な所でした。

中村：個人情報取り扱いが問題になっていますが、取扱いをどうしておられますか？

山田：全国にはいろいろな形があると聞いていますが、高齢者以外に身体・知的・精神障害等の情報もあり、一方的に行政から情報を流すことは問題があります。やはり本人からの手上げ方式で整備するべきで、要援護者名簿の整備は時間もかかりますが、「災害などの時に助けてもらいたい」という本人からの意思があることが前提となります。

中川：障害者団体との協力、情報共有はどうしていますか？団体ルートからのものもありますか？

山田：市から各障害者団体等に安否情報の収集をお願いしましたが、お互いの協力についてはうまく行きませんでした。北条、比角はダブってやっており、複数のルートで動くことはやむを得ないと思います。

松浦：名簿の作成と共有は課題であり、個々に作られていても、名簿の統合や外部との共有は十分ではありません。市町村長に理解してもらい、強力に進めてもらうことも必要だと思います。

中川：どういうつなぎ方がよいか？誰かの手にかかった複数の情報があり、現場でうまくいった例は？

山田：いろいろなルートができていても、今回のような市全域の災害の場合は各人がどこに避難されたか分からなくなります。分かるまでに時間を要しました。

国のモデル事業で、住民基本台帳（カード）に、緊急時連絡先等を入れて普段から携帯するなどのシステムを検証しましたが、普段、寝ている時にそのカードを身近において置くだらうか？ましてや災害時には1割くらいしか持って出ないだらうと考え、このシステムの採用は難しいという結論になりました。

災害の規模が大きくなるほど自宅から避難された方々の行方を捜すことは難しくなります。

普段から隣近所の人に対し、災害時には私は親戚宅に行く、どこそこの避難所へ行く、と言っておいてくれれば良いのですが。避難所で住所氏名をお聞きしながら、要援護者の方々を確認するなどしかないと思います。

中村：避難所での要援護者支援策はどうでしたか？

山田：避難先を確認してきた方には、まずは近くの避難所に避難して欲しいと言いました。その後、医療救護所、

福祉避難所も作って行きましたが、市では、最初から福祉避難所をどこにするか決めておらず、したがってベッドもありませんでした。学校などに福祉避難所を作って空き教室に布団を敷き、休んでいただいた。避難所での避難者と要援護者の需要の予測は難しいと感じています。

中村：あらかじめ協定等を結んでいなかったのか？困った点や、こうすればよかったという点はありませんか？

また、世話をする人はどう確保しましたか？

山田：避難所で具合が悪い人がいれば、福祉避難所へ移っていただき、保健師等がお世話しました。16年の地震の経験から避難所の鍵を開ける担当の職員を決めていて、避難者の対応をしました。初期は避難所運営に、学校職員も対応してくれました。

松浦：老人福祉施設協議会等の協力で、県内外から約1,200人の福祉介護専門職が応援に入って対応しました。関係団体とのネットワークが有効でした。

中川：阪神後、災害研究会のレポートを作ったりしていましたが、10年たち、能登、中越でようやく形になってきました。柏崎では、準備していなかったというが、それではダメと言ってほしい。横浜では、協定しているが、どうしてよいかわからなかったのです。避難所を立ち上げると、要援護者ではないが避難所に残る人がいる。何もしない人、エコノミー症候群も。輪島市長に能登半島地震後4日目に聞いたら、小さな避難所は年寄りが元気だが大きな所は元気がない。単位を小さくしたり、保育園児と一緒に生活できるようにしたら、保育士も頑張り、元気が出てきたということでした。過剰に対応せずに済む仕組みを作ることが必要ではないでしょうか。

山田：小さな避難所は、地域の中で顔見知りだということもあり、避難者自ら動いているので元気ですが、1箇所で400人もの避難者がいる中心部の避難所ではリーダーになる人も出ないし、お年寄りも元気ありません。今後は避難者自らもできることを手伝っていただき、健康管理面からも「お客さん」にならないように考えることが重要だと思います。

中川：大規模災害研究会の中では、小さな避難所にしようという声がありましたが、手を打とうとしましたか？

山田：ケースバイケースであり、要援護者や具合の悪い方には福祉施設や福祉避難所あるいは小さな避難所に移動していただくよう説得したが、「近所から離れたくない」「家族と一緒にいたい」として、本人がガンとして断られた例もありました。避難所の体育館は暑くて非常に環境は良くなかったが、避難者が少なくなるにつれ小さい避難所に移っていただいたり、コミュニティでは2階の畳部屋に移動してもらったりもしました。

中川：ここまでやったのは今回が初めて。能登もそうでしたが、保健師は体操させて終わってしまうが、介護士

は、「寝床で食べるのではなく、一緒に食べよう」というところから始まり、何かしてもらおう立場から生活にリズムを作っていく、ふだんの生活に早く戻してあげるといふ支援をしていたのが良かったです。介護士は柏崎では入れず、刈羽ではボランティアとして入っていました。ふだんの介護の方法・知恵の共有が必要です。

山田：今後は介護士の人たちならではのノウハウを生かす必要がありますね。

中村：避難所の中で役割分担は何かしましたか？

山田：400～500人規模の避難所では無理ですが、40～50人規模の小さな避難所では自分たちが考えた役割分担ができていました。

中川：ワンフロア毎に役割を作る等が必要では。ビックリしたのは、柏崎小でボランティア活動をしていた中学生に、避難者が食事に文句をつけたというんです。大規模避難所では依存症になってしまう。また、自衛隊が炊き出しをするのは当たり前と思ってしまう。できるだけ早く自分たちで炊き出しなどをやらせれば良かったのではないのでしょうか。

山田：今回、ガス・水道が使えないため、避難所に入っていない市民に対しても食事が必要となったので、自衛隊にも相当長期間炊き出しをお願いしました。被災後10日目頃に地元商店でも「お金を出してもらえば食事に限らず自分たちでも提供できるが」と言っていました。個人的には、大変お世話になりましたが自衛隊の炊き出し期間が長くなり依存心の高い市民がふえたのではないかと反省があります。市本部としても避難所外の市民に対し、炊き出し等の期間についてが一番苦労しました。

中川：中越と中越沖地震では、自衛隊の派遣数が逆転していました。地元商店で使える食事券を出すなど、食材、地域経済の回し方を事前に知っておき、回し方を考えておかないと支援疲れになってしまいます。

山田：2週間後くらいに小千谷の人から実践例をお聞きし、市内業者で弁当配給ができるかどうか検討していただき、始まったものがありました。しかし、立ち上げに時間がかかり、ボランティア等用だけのお弁当になったと聞いています。自主防が強いところでは、自分たちで自立していこうという所もあり、現在、これらを含めてすべての教訓を忘れないよう、職員の活動記録などをまとめているところです。

中村：要支援者に関わらず、避難所からどう移っていくかが課題ですが、避難所運営に県の支援は。

松浦：中越地震時は、約1週間後に県が調査に行きましたが、中越沖では、当日から避難所に入って情報収集しました。県は、ある程度先が見える立場から、何を次にすべきかアドバイスや提言をし、市が動けない時には県が直接やることも必要だと思います。

山田：県から暑さ対策、感染症対策等積極的に提案していただきました。新潟県をはじめ全国の保健師さんからも応援していただきました。

中川：あちこちに汗をかく現場に県の職員がいてビックリしました。仕切るわけではなく、人手として動いていましたが、普段からしたことがない仕事だったのでどうか。

山田：市の避難所担当職員は長期になると日替わりで交代になりますが、県職員の場合は遠くから来られるため、1泊2日で同じ人が1週間後に又来るなどで、県職員のほうが手慣れた面もありました。市としては、その日の避難所担当職員に毎朝集まってもらい、「避難所での任務とは、エコノミー症候群、感染症対策など」を説明してから、避難所に送り出していました。県から、り災家屋調査の時にも職員を大動員していただきました。

松浦：県のアドバイスと、現場の意識や状況にズレがあり、方針として共有できない面もありました。

中川：能登半島地震では、県市町合同会議があり、振り返ってみるとかなり有効でした。中越沖での柏崎市合同会議では、市として言わなければならない面もあり・・・。

山田：国・県・市合同災害対策本部の会議は報道機関に公開で、言えない部分もあり、別室で市の災害対策本部員会議を開いたりしていました。

中村：要支援者の中で、目が見えない、耳が聞こえない人など情報弱者への情報伝達として、避難所で何か対策をとられましたか。

松浦：県は、可能な限り文字による情報提供を行うよう、発災当日に通知を出しました。3日目から、手話通訳者を派遣し、市の相談窓口での通訳などを行いました。

山田：障害者の方は福祉施設に入っていたかどうかお願いました。

中村：情報弱者へは避難時における情報伝達が課題となりますが。

山田：耳の遠い方には、当初ファクシミリで情報を送りました。

松浦：外国人向けには、災害多言語支援センターを柏崎に作り、多言語での情報伝達に努めました。コミュニティFMで多言語放送も流しました。

山田：合同災害対策本部会場に地元のFMピッカラの職員が入り、防災行政無線より詳しく伝えることができ、市民からは好評でした。新潟産業大には中国人留学生が多いので、防災マップに避難所等の表示をしようと検討していましたが今回は間に合いませんでした。防災行政無線でも、多言語は流せず、後で聞くとどこに避難したら良いかなど不安が残ったということでした。きめ細かな対応が必要でした。

中村：では、次に、避難所解消後の応急仮設住宅で必要な対応についてお聞きしたいのですが。

山田：避難所内は暑くて環境が良くないので、早めの閉鎖を目指し、8月31日で0になりました。震災2週間後位を目処に、市内・市外で避難所の形態を変えた所（旅館・ホテル等）に移動していただいたりもしました。現在はそれらの方は仮設住宅に移られています。

仮設住宅には生活支援相談員17名を配置し、様々な相談を受けています。また、昨年7月からワンストップサービスの被災者相談所を開設し、昨年9月からは復興支援室を新たに設置し、健康相談、生活再建相談等復興に向け様々な支援を行っているところです。

松浦：生活支援相談員は、昨年9月1日から概ね5年間、仮設住宅100戸当たり1人に加えて、集会所毎に1名を配置し、訪問相談や要援護者対応にあたっています。集会所はサポートセンターとして、ゲームなどによる引きこもり対策や入浴支援などを行っています。集会所のコーディネーター役として相談員を配置したのは、今回の新たな取り組みでした。

山田：現在、被災者支援台帳を作っています。これは被災者の家屋被害状況、健康状態、世帯収入、支援の内容などが入ったものです。GIS化し、一括して各種支援に役立つようなシステムです。仮設入居者と全壊以上の世帯には部課長が伺い、日常会話から始め、支援の状況、今後の生活等についてどうするかを詳しく聞きこのシステムに反映させています。

中川：阪神の経験共有が進められていますが、中越地震被災者との経験を共有していますか。悩みを抱えている人をどうするか、ブリーフィングなどを行っていますか。

松浦：県内の市町村で経験が十分共有されているか疑問もあり、市町村間での学び合いが必要ではないかと思っています。

中川：刈羽では、避難所で大変な状態にあった人の個別ケアのノウハウが入った“カルテ”を作り、仮設に行く人へ渡していたが、場を作ってあげる必要があるのでは。

山田：8月初旬に避難者台帳が初めてできましたが、それが被災者台帳にはつながりませんでした。仮設住宅は入居2年間と決まっているため、被災者公営住宅を170戸建設することにしています。

中村：最後に、今後の教訓があれば、お願いします。

山田：これほどの災害規模になると行政が手を差し伸べられるのには限界があり、真に活動できる自主防災組織率のアップを図りたいと思っています。また、今回行政ができなかったことを地域に出て明らかにするとともに、自助・共助・公助の順番の重要性を市民に訴えて行きたいと思っています。

松浦：地震はいつでも何度でも起こり得ることを痛感しました。今後も自助・共助の態勢づくりに力を入れるとともに、市町村と方針を共有しながら、積極的にサポートして行きたいと思っています。

三井：日赤は、他ができないことをやって行くことに使命があります。もう一步踏み出すにはどうしたらよいか、医療では、在宅の人への巡回診療もしているので、赤十字の得意技をぜひ活用してほしいと思っています。

中川：ダメ出しをするのが災害であり、それを支える公助がうまくおだてあつて行くのが良いのではないかと、横浜でも著名な学者に声をかけました。おだてられると、始めています。柏崎では、おだてあいがかうまく行かなかった部分があったのではないかと。補い合い、経験が生かされることが大切ではないかと思えます。

中村：福祉の分野においても、「地域福祉研究会」で検討しているなかでも、自助、公助がありますが、共助を地域に広めるべきであり、行政がこれをバックアップするための基盤整備（人を育成する、コーディネーターを作る、拠り所を作る）が必要であると指摘されています。

今日は、コミュニティの力、避難所に入った人の元の力、生活リズムをどう戻していくか、書いて伝達することの大切さ、サポートする県の役割、国との関連、行政関係者が情報を生かすことなど、いろいろ出ましたが、経験のある人でないと言えないことが多くありました。

災害はいつ起きるかわからないので、今後も情報共有をぜひ進めていただきたい。

本日はどうもありがとうございました。（了）



■座談会のもよう

平成 19 年新潟県中越沖地震災害についての調査 集計結果

日本赤十字社事業局救護・福祉部

まず、昨年 7 月 16 日の地震当日のことについてお聞きします

問1 7月16日朝10時13分頃地震が起きたとき、あなたはどこにいましたか。あてはまるものを1つ選んでください。

	柏崎 (n=150)	西山地区 (n=150)	刈羽 (n=326)	合計 (n=626)
1. 自宅内	92 (61.3)	75 (50.0)	154 (47.2)	321 (51.3)
2. 屋外にいた	20 (13.3)	25 (16.7)	57 (17.5)	102 (16.3)
3. 乗り物で移動中だった	7 (4.7)	8 (5.3)	32 (9.8)	47 (7.5)
4. その他	21 (14.0)	29 (19.3)	63 (19.3)	113 (18.1)
5. 柏崎市・刈羽村にいなかった	10 (6.7)	13 (8.7)	18 (5.5)	41 (6.5)
無回答	- (-)	- (-)	2 (0.6)	2 (0.3)

問2 地震で大きく揺れたとき、あなたはどうしましたか。あてはまるものをいくつでも選んでください。

	柏崎 (n=140)	西山地区 (n=137)	刈羽 (n=306)	合計 (n=583)
1. その場でほとんど動くことができなかった	93 (66.4)	75 (54.7)	198 (64.7)	366 (62.8)
2. 家族の場所に行った	16 (11.4)	9 (6.6)	23 (7.5)	48 (8.2)
3. 机やテーブルの下にもぐった	1 (0.7)	3 (2.2)	3 (1.0)	7 (1.2)
4. ドアや窓を開けた	4 (2.9)	3 (2.2)	10 (3.3)	17 (2.9)
5. 家具や戸棚に挟まれたり、下敷きになったりした	5 (3.6)	- (-)	1 (0.3)	6 (1.0)
6. 頑丈なものにつかまって身をささえた	21 (15.0)	27 (19.7)	51 (16.7)	99 (17.0)
7. 家の中の物が飛んできて、体に当たった	10 (7.1)	5 (3.6)	11 (3.6)	26 (4.5)
8. 屋外に飛び出した	34 (24.3)	43 (31.4)	72 (23.5)	149 (25.6)
9. 倒れそうな家具や戸棚を押さえた	6 (4.3)	6 (4.4)	11 (3.6)	23 (3.9)
10. 屋外にいたので建物の中に入ろうとした	2 (1.4)	4 (2.9)	6 (2.0)	12 (2.1)
11. 覚えていない	- (-)	2 (1.5)	- (-)	2 (0.3)
12. その他	19 (13.6)	16 (11.7)	26 (8.5)	61 (10.5)
無回答	- (-)	- (-)	5 (1.6)	5 (0.9)

問3 あなたまたは、ご家族で、地震でけがをしたかたがおられましたか。あてはまるものを選んでください。

	柏崎 (n=150)	西山地区 (n=150)	刈羽 (n=326)	合計 (n=626)
1. 自分がケガをした	15 (10.0)	11 (7.3)	30 (9.2)	56 (8.9)
2. 家族がケガをした	17 (11.3)	15 (10.0)	40 (12.3)	72 (11.5)
3. 自分も家族もケガはしなかった	122 (81.3)	126 (84.0)	247 (75.8)	495 (79.1)
無回答	- (-)	- (-)	12 (3.7)	12 (1.9)

問4 地震が起きたとき、お宅では、何か火を使っていましたか。あてはまるものを1つ選んでください。

	柏崎 (n=150)	西山地区 (n=150)	刈羽 (n=326)	合計 (n=626)
1. 火を使っていた	6 (4.0)	8 (5.3)	13 (4.0)	27 (4.3)
2. 火を使っていなかった	144 (96.0)	142 (94.7)	304 (93.3)	590 (94.2)
無回答	- (-)	- (-)	9 (2.8)	9 (1.4)

付問 4-1 (問4で「1. 火を使っていた」と答えた方にお聞きます)

地震のとき、あなた、またはご家族は、火の始末をしましたか。あてはまるものをいくつでも選んでください。

	柏崎 (n=6)	西山地区 (n=8)	刈羽 (n=13)	合計 (n=27)
1. 揺れが大きくなる前に火を消した	- (-)	3 (37.5)	4 (30.8)	7 (25.9)
2. 揺れている最中に火を消した	3 (50.0)	2 (25.0)	5 (38.5)	10 (37.0)
3. 揺れが収まってから火を消した	- (-)	1 (12.5)	1 (7.7)	2 (7.4)
4. 火は自動的に消えた	4 (66.7)	2 (25.0)	3 (23.1)	9 (33.3)
5. 火を消そうと思ったが、すべてを消すことができなかった	- (-)	1 (12.5)	- (-)	1 (3.7)
6. 火は消さなかった	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)
7. その他	- (-)	- (-)	2 (15.4)	2 (7.4)
無回答	- (-)	- (-)	1 (7.7)	1 (3.7)

問5 あなたは地震の直後に、津波を警戒して、高台等に避難しましたか。あてはまるものを1つ選んでください。

	柏崎 (n=150)	西山地区 (n=150)	刈羽 (n=326)	合計 (n=626)
1. 津波を警戒して避難した	5 (3.3)	6 (4.0)	3 (0.9)	14 (2.2)
2. 避難しなかった	145 (96.7)	143 (95.3)	298 (91.4)	586 (93.6)
無回答	- (-)	1 (0.7)	25 (7.7)	26 (4.2)

問6 地震の翌日から、建物応急危険度判定がなされ、建物に赤や黄や緑の紙がはられました。あなたが住んでいたご自宅の建物には何色が貼られましたか。あてはまるものを1つ選んでください。

	柏崎 (n=150)	西山地区 (n=150)	刈羽 (n=326)	合計 (n=626)
1. 赤 (危険)	43 (28.7)	60 (40.0)	84 (25.8)	187 (29.9)
2. 黄色 (要注意)	40 (26.7)	66 (44.0)	96 (29.4)	202 (32.3)
3. 緑	65 (43.3)	23 (15.3)	132 (40.5)	220 (35.1)
4. 何も貼られなかった	2 (1.3)	1 (0.7)	11 (3.4)	14 (2.2)
無回答	- (-)	- (-)	3 (0.9)	3 (0.5)

付問 6-1 (問6で「1.赤」または「2.黄色」と答えた方のみお答えください)

赤または黄色の紙を貼られて、家の中への出入りはどうなさいましたか。あてはまるものを1つ選んで下さい。

	柏崎 (n=83)	西山地区 (n=126)	刈羽 (n=180)	合計 (n=389)
1. 非常に危険なので家には絶対入らなかった	9 (10.8)	6 (4.8)	10 (5.6)	25 (6.4)
2. 家の片づけや物を持ち出したりするため、気をつけながら時々出入りした	41 (49.4)	66 (52.4)	96 (53.3)	203 (52.2)
3. 家に頻繁に出入りした	12 (14.5)	17 (13.5)	22 (12.2)	51 (13.1)
4. 危険とされたがずっと住み続けた	20 (24.1)	35 (27.8)	46 (25.6)	101 (26.0)
5. その他	1 (1.2)	2 (1.6)	1 (0.6)	4 (1.0)
無回答	- (-)	- (-)	5 (2.8)	5 (1.3)

問7 地震当日、あなたが困ったことは何ですか。あてはまるものをいくつでも選んでください。

	柏崎 (n=150)	西山地区 (n=150)	刈羽 (n=326)	合計 (n=626)
1. 家が壊れて自宅にいらなかった	24 (16. 0)	32 (21. 3)	47 (14. 4)	103 (16. 5)
2. 余震が怖くて自宅に入れなかった	52 (34. 7)	80 (53. 3)	159 (48. 8)	291 (46. 5)
3. 避難した場所が不自由だった	12 (8. 0)	17 (11. 3)	36 (11. 0)	65 (10. 4)
4. 電気・ガスが止まった	121 (80. 7)	117 (78. 0)	277 (85. 0)	515 (82. 3)
5. 水道が止まり、飲み水などが不足した	130 (86. 7)	123 (82. 0)	270 (82. 8)	523 (83. 5)
6. 十分な食事がとれなかった	65 (43. 3)	71 (47. 3)	167 (51. 2)	303 (48. 4)
7. 冷房が不十分だった (暑かった)	23 (15. 3)	17 (11. 3)	54 (16. 6)	94 (15. 0)
8. トイレが使いにくかった	115 (76. 7)	101 (67. 3)	231 (70. 9)	447 (71. 4)
9. 寝具や毛布が足りなかった	7 (4. 7)	3 (2. 0)	14 (4. 3)	24 (3. 8)
10. 電話や携帯電話が通じにくかった	80 (53. 3)	77 (51. 3)	206 (63. 2)	363 (58. 0)
11. 家族・親戚・知人の安否が分からなかった	23 (15. 3)	29 (19. 3)	97 (29. 8)	149 (23. 8)
12. テレビ・ラジオを見聞きすることができなかった	38 (25. 3)	43 (28. 7)	130 (39. 9)	211 (33. 7)
13. 道路が使えず交通機関が止まっていた	15 (10. 0)	32 (21. 3)	96 (29. 4)	143 (22. 8)
14. 自分や家族の持病が悪化することが心配だった	15 (10. 0)	16 (10. 7)	32 (9. 8)	63 (10. 1)
15. 留守宅への泥棒が心配だった	13 (8. 7)	23 (15. 3)	38 (11. 7)	74 (11. 8)
16. この先の生活をどうしたらよいか不安だった	51 (34. 0)	62 (41. 3)	100 (30. 7)	213 (34. 0)
17. よく眠れなかった	78 (52. 0)	85 (56. 7)	161 (49. 4)	324 (51. 8)
18. その他	8 (5. 3)	4 (2. 7)	23 (7. 1)	35 (5. 6)
19. 何も困ったことはなかった	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)
無回答	- (-)	- (-)	2 (0. 6)	2 (0. 3)

問8 地震当日、あなたはどんな情報を知りたかったですか。あてはまるものをいくつでも選んでください。

	柏崎 (n=150)	西山地区 (n=150)	刈羽 (n=326)	合計 (n=626)
1. 地震の規模・発生場所・震度	106 (70. 7)	101 (67. 3)	228 (69. 9)	435 (69. 5)
2. 余震の今後の見通し	112 (74. 7)	117 (78. 0)	245 (75. 2)	474 (75. 7)
3. 地震でどこにどれくらい被害が出ているか	89 (59. 3)	88 (58. 7)	198 (60. 7)	375 (59. 9)
4. 家族・知人・子供たちの安否	48 (32. 0)	54 (36. 0)	125 (38. 3)	227 (36. 3)
5. 原子力発電所の状況	94 (62. 7)	102 (68. 0)	207 (63. 5)	403 (64. 4)
6. 市がどんな対応をしているか	61 (40. 7)	54 (36. 0)	89 (27. 3)	204 (32. 6)
7. 水や食料、毛布などを十分提供してくれるか	50 (33. 3)	50 (33. 3)	113 (34. 7)	213 (34. 0)
8. どの病院にいけばよいか	9 (6. 0)	9 (6. 0)	25 (7. 7)	43 (6. 9)
9. この後、どのような支援をしてくれるのか	59 (39. 3)	65 (43. 3)	133 (40. 8)	257 (41. 1)
10. 自分や家族はこれからどう行動すればよいか	42 (28. 0)	37 (24. 7)	85 (26. 1)	164 (26. 2)
11. 避難した場所にどれくらいの期間いられるのか	11 (7. 3)	15 (10. 0)	31 (9. 5)	57 (9. 1)
12. 電話・携帯電話のつながり具合	34 (22. 7)	31 (20. 7)	91 (27. 9)	156 (24. 9)
13. 勤務先 (仕事) の営業・操業見通し	23 (15. 3)	26 (17. 3)	68 (20. 9)	117 (18. 7)
14. その他	- (-)	3 (2. 0)	6 (1. 8)	9 (1. 4)
15. 知りたい情報はなかった	1 (0. 7)	1 (0. 7)	- (-)	2 (0. 3)
無回答	1 (0. 7)	- (-)	6 (1. 8)	7 (1. 1)

問9 知りたい情報は主に何から得ましたか。あてはまるものをいくつでも選んでください。

	柏崎 (n=150)	西山地区 (n=150)	刈羽 (n=326)	合計 (n=626)
1. 避難所のテレビ	21 (14. 0)	28 (18. 7)	56 (17. 2)	105 (16. 8)
2. 家のテレビやラジオ	78 (52. 0)	73 (48. 7)	137 (42. 0)	288 (46. 0)
3. 避難所の掲示板	18 (12. 0)	21 (14. 0)	40 (12. 3)	79 (12. 6)
4. 自宅の電話・携帯電話・避難所の電話	20 (13. 3)	16 (10. 7)	41 (12. 6)	77 (12. 3)
5. 近所の人たちとの会話	69 (46. 0)	80 (53. 3)	154 (47. 2)	303 (48. 4)
6. 市役所・村役場、警察・消防の人	17 (11. 3)	34 (22. 7)	102 (31. 3)	153 (24. 4)
7. 防災行政無線の屋外スピーカー	67 (44. 7)	76 (50. 7)	178 (54. 6)	321 (51. 3)
8. 防災行政無線の屋内受信機	63 (42. 0)	56 (37. 3)	105 (32. 2)	224 (35. 8)
9. FMピッカラ	72 (48. 0)	18 (12. 0)	47 (14. 4)	137 (21. 9)
10. その他	4 (2. 7)	13 (8. 7)	28 (8. 6)	45 (7. 2)
11. 知りたいことはなかった	- (-)	- (-)	1 (0. 3)	1 (0. 2)
無回答	1 (0. 7)	- (-)	5 (1. 5)	6 (1. 0)

問 10 地震が発生した時、お宅には、あなた自身も含めて、災害時に避難するときなど、援助あるいは支援が必要な方はいますか。あてはまるものをいくつか選んでください。

	柏崎 (n=150)	西山地区 (n=150)	刈羽 (n=326)	合計 (n=626)
1. 乳幼児・小学校低学年児	18(12.0)	21(14.0)	47(14.4)	86(13.7)
2. 1人での避難が困難な高齢者	30(20.0)	18(12.0)	52(16.0)	100(16.0)
3. 寝たきりまたは障害・病気などで1人での避難が困難な方	9(6.0)	7(4.7)	29(8.9)	45(7.2)
4. その他	4(2.7)	4(2.7)	5(1.5)	13(2.1)
5. いない	90(60.0)	98(65.3)	173(53.1)	361(57.7)
無回答	1(0.7)	4(2.7)	37(11.3)	42(6.7)

付問 10-1 (問10で、「1. 乳幼児・小学校低学年児」～「4. その他」と答えた方にお聞きします)
 そのような方を、昨年の地震ではどのように対処されましたか(あてはまるものにいくつか○)。

	柏崎 (n=59)	西山地区 (n=48)	刈羽 (n=116)	合計 (n=223)
1. 地震で大きく揺れた時に守った	27(45.8)	25(52.1)	31(26.7)	83(37.2)
2. 建物や家具の下敷きになり救助した	1(1.7)	-(-)	3(2.6)	4(1.8)
3. 地震の揺れの後、家族や近所の人助けを借りて避難させた	7(11.9)	8(16.7)	9(7.8)	24(10.8)
4. 一時的に、他地区の家族や親戚の家で面倒を見てもらった	15(25.4)	10(20.8)	18(15.5)	43(19.3)
5. 民生委員や保健師、看護師等に相談をした	-(-)	4(8.3)	4(3.4)	8(3.6)
6. 一時的に社会福祉施設に入った	4(6.8)	5(10.4)	7(6.0)	16(7.2)
7. 一時的に福祉避難所に入った	1(1.7)	2(4.2)	5(4.3)	8(3.6)
8. その他	8(13.6)	1(2.1)	13(11.2)	22(9.9)
無回答	7(11.9)	7(14.6)	45(38.8)	59(26.5)

次に、避難生活についてお聞きします。

問 11 あなたやご家族は、地震後、主にどこで生活していましたか。(1)震災直後、(2)震災1週間後、(3)震災1か月後、(4)現在のそれぞれの時点で、1～11のあてはまるものにひとつずつ○をつけてください。

		自宅	親戚の家	近所の家	友人・知人	会社	車の中	納屋・倉庫等	野宿	避難所	仮設住宅	老健施設等	その他	無回答
(1) 震災直後	柏崎 (n=150)	83 (55.3)	17 (11.3)	2 (1.3)	-(-)	9 (6.0)	3 (2.0)	2 (1.3)	34 (22.7)	-(-)	-(-)	-(-)	-(-)	-(-)
	西山地区 (n=150)	44 (29.3)	9 (6.0)	3 (2.0)	-(-)	30 (20.0)	12 (8.0)	2 (1.3)	45 (30.0)	-(-)	-(-)	5 (3.3)	-(-)	-(-)
	刈羽 (n=326)	118 (36.2)	27 (8.3)	4 (1.2)	3 (0.9)	72 (22.1)	15 (4.6)	-(-)	65 (19.9)	-(-)	2 (0.6)	12 (3.7)	8 (2.5)	8 (2.5)
	合計 (n=626)	245 (39.1)	53 (8.5)	9 (1.4)	3 (0.5)	111 (17.7)	30 (4.8)	4 (0.6)	144 (23.0)	-(-)	2 (0.3)	17 (2.7)	8 (1.3)	8 (1.3)
(2) 震災1週間後	柏崎 (n=150)	95 (63.3)	19 (12.7)	2 (1.3)	1 (0.7)	1 (0.7)	2 (1.3)	2 (1.3)	26 (17.3)	-(-)	-(-)	2 (1.3)	-(-)	-(-)
	西山地区 (n=150)	84 (56.0)	6 (4.0)	1 (0.7)	-(-)	8 (5.3)	14 (9.3)	-(-)	33 (22.0)	-(-)	1 (0.7)	3 (2.0)	-(-)	-(-)
	刈羽 (n=326)	195 (59.8)	20 (6.1)	4 (1.2)	3 (0.9)	5 (1.5)	23 (7.1)	1 (0.3)	49 (15.0)	-(-)	2 (0.6)	8 (2.5)	16 (4.9)	16 (4.9)
	合計 (n=626)	374 (59.7)	45 (7.2)	7 (1.1)	4 (0.6)	14 (2.2)	39 (6.2)	3 (0.5)	108 (17.3)	-(-)	3 (0.5)	13 (2.1)	16 (2.6)	16 (2.6)

		自宅	親戚の家	近所の家 友人・知人・	会社	車の中	納屋・倉庫等	野宿	避難所	仮設住宅	老健施設等	その他	無回答
(3) 震災1か月後	柏崎 (n=150)	101 (67.3)	11 (7.3)	2 (1.3)	-(-)	-(-)	2 (1.3)	-(-)	11 (7.3)	21 (14.0)	-(-)	2 (1.3)	-(-)
	西山地区 (n=150)	106 (70.7)	4 (2.7)	1 (0.7)	-(-)	-(-)	9 (6.0)	-(-)	14 (9.3)	14 (9.3)	-(-)	2 (1.3)	-(-)
	刈羽 (n=326)	216 (66.3)	14 (4.3)	-(-)	-(-)	1 (0.3)	7 (2.1)	-(-)	22 (6.7)	35 (10.7)	1 (0.3)	9 (2.8)	21 (6.4)
	合計 (n=626)	423 (67.6)	29 (4.6)	3 (0.5)	-(-)	1 (0.2)	18 (2.9)	-(-)	47 (7.5)	70 (11.2)	1 (0.2)	13 (2.1)	21 (3.4)
(4) 現在	柏崎 (n=150)	100 (66.7)	-(-)	-(-)	-(-)	-(-)	-(-)	-(-)	-(-)	50 (33.3)	-(-)	-(-)	-(-)
	西山地区 (n=150)	99 (66.0)	-(-)	1 (0.7)	-(-)	-(-)	-(-)	-(-)	-(-)	50 (33.3)	-(-)	-(-)	-(-)
	刈羽 (n=326)	213 (65.3)	3 (0.9)	-(-)	-(-)	-(-)	2 (0.6)	-(-)	-(-)	77 (23.6)	2 (0.6)	7 (2.1)	22 (6.7)
	合計 (n=626)	412 (65.8)	3 (0.5)	1 (0.2)	-(-)	-(-)	2 (0.3)	-(-)	-(-)	177 (28.3)	2 (0.3)	7 (1.1)	22 (3.5)

(問 11 で、「8.避難所」と答えた方にお聞きします)

付問 11-1 あなたは、どの避難所で避難生活を送られていましたか。具体的に記入してください。

最初の避難所名:	次の避難所:	3番目の避難所:
----------	--------	----------

(計 平均 柏崎 (n=43) 1.1 箇所)
 西山地区 (n=54) 1.1
 刈羽 (n=77) 1.0

付問 11-2 避難所には、7月 16 日に地震が発生した後、いつからいつ頃までいましたか。

	柏崎	西山地区	刈羽	合計
1. 寝泊まりしていた期間 平均 (日間)	(n=43) 18.8	(n=50) 18.4	(n=78) 18.4	(n=171) 18.5
2. 食料だけ受け取りに行っていた期間 平均 (日間)	(n=13) 13.1	(n=25) 15.2	(n=25) 9.1	(n=63) 12.3
3. その他	-(-)	-(-)	-(-)	-(-)

付問 11-3 避難所での生活で良かったと感じたことがありますか。あてはまるものをいくつでも選んでください。

	柏崎 (n=43)	西山地区 (n=54)	刈羽 (n=80)	合計 (n=177)
1. 体が不自由な人のためのトイレ	4 (9.3)	6 (11.1)	8 (10.0)	18 (10.2)
2. 食料や水などが豊富だった	31 (72.1)	36 (66.7)	54 (67.5)	121 (68.4)
3. テレビや新聞が寄贈されたこと	24 (55.8)	26 (48.1)	48 (60.0)	98 (55.4)
4. 市からの情報が入手できたこと	20 (46.5)	15 (27.8)	18 (22.5)	53 (29.9)
5. 近所の人と一緒にだったこと	14 (32.6)	28 (51.9)	46 (57.5)	88 (49.7)
6. 電話を設置してくれた	9 (20.9)	14 (25.9)	24 (30.0)	47 (26.6)
7. お風呂に入ることができた	24 (55.8)	34 (63.0)	40 (50.0)	98 (55.4)
8. 物がたくさん寄付されたこと	14 (32.6)	15 (27.8)	34 (42.5)	63 (35.6)
9. 医師や看護師がいたこと	24 (55.8)	17 (31.5)	38 (47.5)	79 (44.6)
10. 保健師がいたこと	11 (25.6)	19 (35.2)	28 (35.0)	58 (32.8)
11. ボランティアの支援があった	23 (53.5)	29 (53.7)	48 (60.0)	100 (56.5)
12. 特に良い点はなかった	3 (7.0)	2 (3.7)	2 (2.5)	7 (4.0)
無回答	-(-)	1 (1.9)	4 (5.0)	5 (2.8)

付問 11-4 あなたは次のようなことを避難場所での生活で体験しましたか(あてはまるものいくつかでも○)。

	柏崎 (n=43)	西山地区 (n=54)	刈羽 (n=80)	合計 (n=177)
1. トイレが混んでいたりして、行きにくい	15(34.9)	15(27.8)	23(28.8)	53(29.9)
2. 常用薬が無くなったり、医者にかかれなかった	1(2.3)	1(1.9)	1(1.3)	3(1.7)
3. 避難生活で足腰が弱った	6(14.0)	7(13.0)	7(8.8)	20(11.3)
4. 避難所で、段差や階段があって動くのに困った	5(11.6)	1(1.9)	1(1.3)	7(4.0)
5. 持病が悪化、風邪をひいたり、胃腸障害にあった	1(2.3)	2(3.7)	3(3.8)	6(3.4)
6. 体調を崩したり、疲れやすくなった	13(30.2)	23(42.6)	24(30.0)	60(33.9)
7. 騒がしく、なんとなく落ち着かない	18(41.9)	28(51.9)	40(50.0)	86(48.6)
8. 避難所の救護所で医者にかかった	10(23.3)	9(16.7)	13(16.3)	32(18.1)
9. プライバシーがない	23(53.5)	28(51.9)	43(53.8)	94(53.1)
10. 食料や毛布・寝具・冷房等が悪い	6(14.0)	9(16.7)	12(15.0)	27(15.3)
11. ほかのひととの共同生活の中で気兼ねがあり、生活しづらかった	21(48.8)	22(40.7)	34(42.5)	77(43.5)
12. 避難所の生活のきまりについていけない	1(2.3)	-(-)	-(-)	1(0.6)
13. その他	5(11.6)	4(7.4)	2(2.5)	11(6.2)
無回答	4(9.3)	2(3.7)	10(12.5)	16(9.0)

問 12 震災後の生活で、もっとも不安を感じたことはどのようなことでしたか。(1)震災直後、(2)震災1週間後、(3)震災1か月後、(4)現在のそれぞれの時点で、1~10のあてはまるものすべてに○をつけてください。

	余震	住む場所	親戚・知人等の安否	食事等生活全般	経済面	仕事	家族の健康	人間関係	仮設住宅	その他	無回答	
(1) 震災直後	柏崎 (n=150)	134 (89.3)	48 (32.0)	43 (28.7)	78 (52.0)	31 (20.7)	24 (16.0)	51 (34.0)	7 (4.7)	5 (3.3)	6 (4.0)	-(-)
	西山地区 (n=150)	129 (86.0)	62 (41.3)	43 (28.7)	87 (58.0)	23 (15.3)	30 (20.0)	45 (30.0)	8 (5.3)	5 (3.3)	3 (2.0)	1 (0.7)
	刈羽 (n=326)	275 (84.4)	87 (26.7)	95 (29.1)	172 (52.8)	48 (14.7)	49 (15.0)	100 (30.7)	14 (4.3)	9 (2.8)	7 (2.1)	15 (4.6)
	合計 (n=626)	538 (85.9)	197 (31.5)	181 (28.9)	337 (53.8)	102 (16.3)	103 (16.5)	196 (31.3)	29 (4.6)	19 (3.0)	16 (2.6)	16 (2.6)
(2) 震災1週間後	柏崎 (n=150)	105 (70.0)	50 (33.3)	10 (6.7)	73 (48.7)	35 (23.3)	24 (16.0)	45 (30.0)	6 (4.0)	9 (6.0)	8 (5.3)	2 (1.3)
	西山地区 (n=150)	94 (62.7)	53 (35.3)	11 (7.3)	83 (55.3)	28 (18.7)	26 (17.3)	50 (33.3)	7 (4.7)	7 (4.7)	2 (1.3)	10 (6.7)
	刈羽 (n=326)	186 (57.1)	84 (25.8)	28 (8.6)	169 (51.8)	67 (20.6)	56 (17.2)	102 (31.3)	11 (3.4)	11 (3.4)	9 (2.8)	27 (8.3)
	合計 (n=626)	385 (61.5)	187 (29.9)	49 (7.8)	325 (51.9)	130 (20.8)	106 (16.9)	197 (31.5)	24 (3.8)	27 (4.3)	19 (3.0)	39 (6.2)
(3) 震災1か月後	柏崎 (n=150)	60 (40.0)	40 (26.7)	3 (2.0)	33 (22.0)	46 (30.7)	17 (11.3)	38 (25.3)	5 (3.3)	14 (9.3)	12 (8.0)	17 (11.3)
	西山地区 (n=150)	58 (38.7)	38 (25.3)	1 (0.7)	37 (24.7)	35 (23.3)	18 (12.0)	35 (23.3)	5 (3.3)	19 (12.7)	3 (2.0)	33 (22.0)
	刈羽 (n=326)	147 (45.1)	50 (15.3)	5 (1.5)	67 (20.6)	97 (29.8)	32 (9.8)	72 (22.1)	11 (3.4)	25 (7.7)	14 (4.3)	52 (16.0)
	合計 (n=626)	265 (42.3)	128 (20.4)	9 (1.4)	137 (21.9)	178 (28.4)	67 (10.7)	145 (23.2)	21 (3.4)	58 (9.3)	29 (4.6)	102 (16.3)
(4) 現在	柏崎 (n=150)	35 (23.3)	17 (11.3)	-(-)	4 (2.7)	49 (32.7)	8 (5.3)	27 (18.0)	4 (2.7)	18 (12.0)	15 (10.0)	48 (32.0)
	西山地区 (n=150)	34 (22.7)	27 (18.0)	-(-)	11 (7.3)	50 (33.3)	10 (6.7)	26 (17.3)	3 (2.0)	19 (12.7)	5 (3.3)	44 (29.3)
	刈羽 (n=326)	89 (27.3)	27 (8.3)	-(-)	16 (4.9)	104 (31.9)	21 (6.4)	55 (16.9)	11 (3.4)	26 (8.0)	22 (6.7)	97 (29.8)
	合計 (n=626)	158 (25.2)	71 (11.3)	-(-)	31 (5.0)	203 (32.4)	39 (6.2)	108 (17.3)	18 (2.9)	63 (10.1)	42 (6.7)	189 (30.2)